

平成26年度

総務文教常任委員会・行政視察報告書



(視察先)

平成26年11月11日(火) 茨城県水戸市  
11月12日(水) 東京都港区

## 11月11日（火）茨城県水戸市

「防災対策について」の調査を実施した。

水戸市は、人口271,011人、面積217.43km<sup>2</sup>を有し、茨城県の中部に位置する県庁所在地であり、国の出先機関や大手企業の支店なども集中し、人と文化の交流点としての役割を果たしている。

日本三公園の一つである偕楽園をはじめ、歴史遺産が数多く残され、全国的に有名な水戸納豆の特産品があり、観光客も多く訪れている。



水戸市における東日本大震災被害状況は、過去に経験のない甚大な被害があった。このことを教訓に、災害時の安全行動の啓発を徹底するため、多くの市民や企業の防災意識の向上を図るため、市民と行政が一丸となり「シェイクアウト訓練」を実施することにより、防災・減災のまちづくりを推進している。

### 【訓練の効果と検証】

- この訓練に88,609人が参加したことは、防災意識の向上が図られ、次なる災害において、被害の軽減につながる。
- 市民と行政が一丸となって実施することで、自助・共助・公助の連携による災害対応の環境整備において、一步前進した。
- ラジオからの情報提供が大きな効果があるために、災害時にはラジオを聴くことを周知できた。

シェイクアウト訓練は、市民が身近な場所で実践的な訓練が行えるものであり、少ない経費で大きな効果が得られるので、今後も継続して行うとのこと。



また、現庁舎が、東日本大震災時に防災拠点施設として機能せず、ライフラインの切断ほか情報収集ができなかったことを教訓に、新庁舎建設に当たっては、市民アンケート、市民検討委員会で市民の意見を聴き、総合防災拠点として安全性が高い庁舎を整備することとしている。

防災機能として、災害に強い庁舎（地震・風水害・火災等）、防災センターの導入（4階フロアに災害対策本部・通信室・備蓄倉庫等）、自立したライフライン（電力・水・通信・燃料等）の構築をめざし、バックアップ機能の強化を図る。

このほか、防災センターと同フロアに、市長・副市長室を設置するほか、関連部署（消防本部・地域安全課・市民生活課等）を配置する。

## 11月12日（水）東京都港区

「港区立図書館の指定管理者制度の導入について」の調査を実施した。

港区は、人口218,204人、面積20.34 km<sup>2</sup>を有し、東京の都心に位置し、台場、六本木、汐留、麻布十番といった人気のスポットや、青山、麻布、赤坂、高輪、芝浦などの個性豊かな街並み、歴史を感じさせる文化財や史跡等、伝統的なものと近代的なものが調和した都市である。

また、空の玄関、羽田・成田と直結し、東京港や新幹線・品川駅により、全国と結ばれるなど利便性に富み、多くの大使館や、世界に向けた情報発信の要が集中している。



### 【指定管理者導入の経緯】

- 図書館業務には、常勤職員、非常勤職員、再任用職員、臨時職員など、多様な職員が混在していること。
- 人件費の高コスト化、開館日や開館時間に対する拡大要望の増大により、効率的・効果的な図書館運営が必要になってきたこと。
- 平成15年度の区の包括外部監査において、図書館業務の外部委託可能性の検討について意見が出されたこと。

上記の理由により、平成17年4月の窓口委託を手始めに、指定管理に移行を進め、平成26年度現在では、区内の6図書館に指定管理者制度を導入している。

### 【成果】

- 開館日の拡大、月曜開館の実施、特別整理期間の短縮、職員の司書率の向上による専門性の確保、指定管理者の創意工夫や専門性を生かした事業の拡大

## 【課題】

○全国的な指定管理者制度の拡大による職員の質の確保

※東京23区では、11区が指定管理者制度を導入（平成25年度）

○公募時の応募者の減少

## 【港区立麻布図書館見学（平成26年7月1日にリニューアルオープン）】

### ☆子育て支援

児童専用の「こどものフロア」（2階）は、併設する子育て支援施設「あっぴい麻布」（1階）と連携し、乳幼児や児童その保護者を対象に読み聞かせのイベント（絵本・紙芝居）を開催するなど、子供たちが本に触れる機会を提供している。



### ☆国際交流

外国人（住民・勤務者）が多い地域性に合わせて、外国語資料コーナーを充実（約4,000冊）させている。

### ☆環境配慮

建物に壁面緑化，館内電力の一部に自然エネルギー，一部の書架や閲覧席には国産木材を導入している。

### ☆各種イベント

各フロアでのテーマ展示，講座・講演会，ナイトシアター，ミニコンサート，ブックスタート，おはなし会，映画会（子供向け，一般向け）

## 総括

### 【水戸市の防災対策について】

市民が一番利用する市役所が被害を受け、使用できない状況を市民が見ており、防災意識が高まっていることからシェイクアウト訓練への参加者も多いのではないかと感じた。

市民、行政が一丸となり、88,609人の登録参加者で行えたことは、災害時の被害の軽減につながるものと考えられる。

訓練実施の事前啓発については、町内会長、学校、企業団体等を対象に説明会を行い、また広くマスコミを利用する中、市長自らラジオCMで呼び掛けるなど、きめ細かな啓発を行っており、トップを含めて危機管理担当者の思いが市民にかなり浸透しているようであった。

霧島市は面積が広く、同時に同様な災害が起こるとは考えにくい。それだけに、防災への訓練等も市民を一つにするのは難しいのではないかと感じた。

【港区立図書館の指定管理者制度の導入について】

民間ならではのお客様に対するサービスの向上により、乳幼児コーナー等をはじめ、子供から高齢者まできめ細かなサービスが図られていた。

図書館の指定管理者制度導入については、鹿児島県下19市中、10市が導入しており、諸問題はあるものの、霧島市も検討を進めるべきではと感じた。

霧島市議会議長 常盤 信一 殿

総務文教常任委員会	委員長	池田	綱雄
	副委員長	有村	隆志
	委員	平原	志保
	同	阿多	己清
	同	中村	正人
	同	松元	深
	同	塩井川	幸生
	同	池田	守
	同	前川原	正人
事務局		宮永	幸一